

多文化共生について 考えよう

地域活動支援課市民協働係
☎ (63)2241

【多文化共生（たぶんかきょうせい）】

…国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。

鹿沼で暮らす外国籍市民の皆さんの声や、支える人の声を聞き、誰もが安心して暮らせる多文化共生のまちづくりについて考えてみましょう。

鹿沼市で暮らす外国籍市民

約40カ国、約1,450人。これは、現在、鹿沼市に暮らす外国籍市民の数です。市の総人口が減少する中で外国籍市民は増加し、外国籍人口率も、5年で1.5倍に増加しました（図1参照）。

ベトナムをはじめとする、多くの若い技能実習生が夢を抱いて、鹿沼のものづくりの技術を学びながら働き、生活しています（図2参照）。



▲日本語教室で書道を体験する外国籍市民

図1 鹿沼市の外国籍人口
(外国籍人口率)

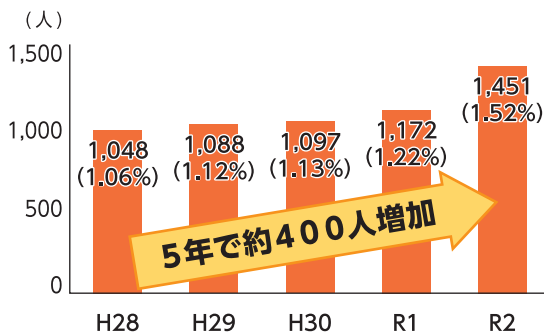
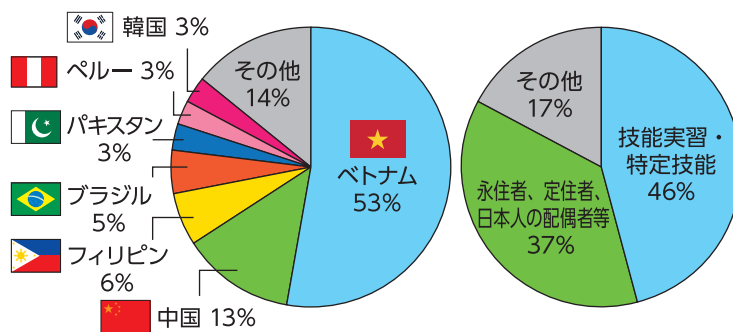


図2 鹿沼市の外国籍市民の国籍・地域別の割合(左)
と在留資格別の割合(右)(2020年)



外国籍市民のためのサポート

日本語教室

市内には、ボランティアの運営による日本語教室があります。「日本語を学ぶ」だけでなく、生活情報を得たり、地域と交流したりできる重要な「居場所」の役割も果たしています。



外国人相談窓口

外国籍市民支援の中心の場として、市国際交流協会が「コミニテ」を運営しています。ポルトガル語、スペイン語、英語、ベトナム語に対応できる外国人相談員がさまざまな生活相談に応じています。



多言語情報発信

転入時に、ごみの出し方や防災マップ、行政手続きなどを翻訳したパンフレットを配布しています。また、広報かぬまやくらしのガイド動画を多言語により作成しているほか、緊急情報の発信にはSNS等を活用しています。





外国籍市民の国籍・地域別を旗で紹介します。



鹿沼で暮らす外国籍市民や支える人の声

「皆さん優しく、あいさつはうれしい」

Q 日本での生活で大変だと感じたことは？

言葉で苦労しました。日本語学校に通い、少しずつ分かるようになり、街中の看板が読めたときはとてもうれしかったです。ごみの出し方も難しいので、間違えないよう、ごみステーションで確かめてから出しています。また、緊急の通報をするとき、きちんと伝えられるかどうか不安です。



ベトナム

外国籍市民
フン ティ イエン ブオンさん
[HUỖNH THỊ YẾN HUƠNG]
令和元年11月に来日
夫・息子・娘2人の5人暮らし

Q うれしかったことは？

鹿沼の皆さんはとても優しく、近所の人があいさつしてくれたり、いろいろ教えてくれます。学校の先生も親切に子どもたちをみてくれます。国際交流協会の存在もありがたく、日本語や文化をもっと知りたいです。



ホアン ティ ハン
相談員(左)
行本 リジア
相談員(右)

「正しい情報で自立の後押しを」

Q 相談のときに心掛けていることは？

話をよく聞き、できるだけ自分で解決できるような方向に進めていくようにしています。また、言語の問題などから、得られる情報が少なかったり、偏っていたりすることがあるため、正確な情報を発信するとともに、そうした情報を得ることの重要性も伝えています。

Q 外国籍市民や支援する皆さんへメッセージを。

支援される側もする側も、誰でも何でも気軽に相談してください！

はじめてみよう!多文化共生の第一歩

多文化共生の呼吸

いち 表の型「あいさつ」

近所の外国籍市民の人にあいさつしてみましょう。

オハヨウ
ゴザイマス

おはよう
ございます



に 式の型「イベントへの参加」

多文化共生、国際交流関連のイベントや講座に参加してみましょう。



さん 参の型「ボランティア」

日本語教室などのボランティアになってみましょう。



イベントやボランティアに興味のある人は、市国際交流協会 ☎ (60)5931 へお問い合わせください!

鹿沼市の多文化共生の取り組みには「外国人」ではなく「外国籍市民」という言葉を使います。国籍が異なっても、鹿沼に暮らす同じ市民であるという思いが込められています。

日本語も地域のルールも分からず、不安な日々を送っている外国籍市民の皆さんに歩み寄ってください。不安を取り除いてあげられるだけでなく、あなたも知らない文化や言語を知る喜びを味わえるきっかけになると思います。皆さんの呼吸を合わせ、やさしさを「全集中」させて、多文化共生のまちづくりをしませんか。

